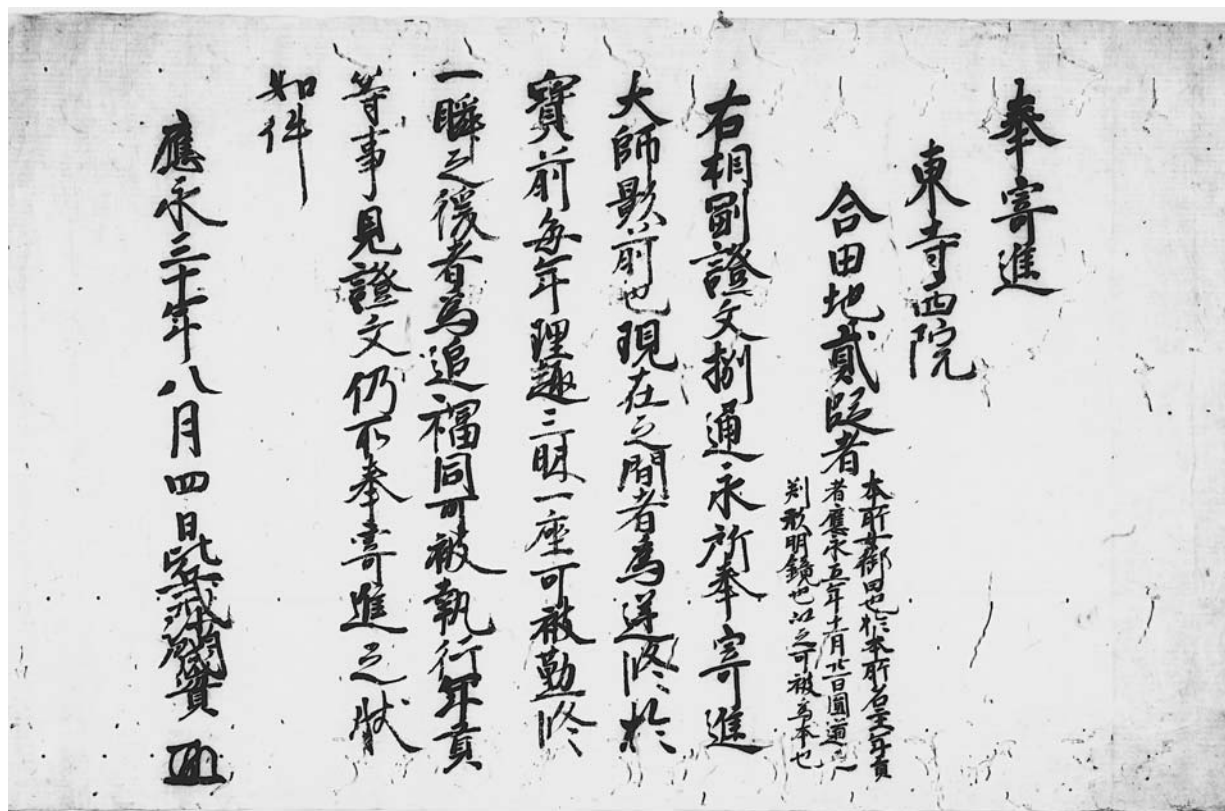




総合資料館だより

2005.10.1 No.145



▲比丘戒沙門成実田地寄進状

大師に帰依し、田地を寄進

応永30(1423)年8月4日、比丘戒沙門成実が生前の逆修^{ぎやくしゆ}と死後の追福^{つひよく}を目的に、毎年決まった日に御影堂の弘法大師像の前において理趣経を讀経し、加持祈禱する法会一座を勤修してもらうために、田地2反を東寺西院御影堂に寄附した時の寄進状です。

なお、逆修とは生きているうちに、あらかじめ死後の冥福を祈って仏事を行うことです。

このように御影堂の大師像の前において、願主の希望に応じての逆修や追善仏事が行われるようになるのは鎌倉時代末期の頃からです。この背景には弘法大師信仰の定着がありました。願主は大師へ帰依して1反・2反という零細な土地や財などを寄進し、死後の追福を願ったのです。

目次	大師に帰依し、田地を寄進	1	第20回東寺百合文書展	2
	文献課の窓から「所蔵調査—『新幹線』のわな—」	4	歴史資料課の窓から「武士の介護休業制度」	6
	最近の収集資料から、第4回古文書解読講座のご案内	8		
	臨時休館のお知らせ、総合資料館府民講座のお知らせ、友の会事務局から ほか	10		

第20回 東寺百合文書展

国宝 中世東寺の年中行事—御影堂—

会 期 平成17年11月1日(火)～12月4日(日) (11月3日(祝)、9日(水)、23日(祝)は休館)
午前9時～午後4時30分
会 場 京都府立総合資料館 2階展示室 (入場無料)

- 列品解説 11月5日(土)、19日(土) 午後2時～ (事前申込不要)
- 記念講演 11月30日(水) 午後2時～
(府民講座) 新見康子氏 (東寺宝物館学芸員)
演題「『弘法さん』の年中行事—東寺御影堂と弘法大師信仰—」
※詳細は、10頁をご覧ください

当館では、府民の皆様に館蔵の東寺百合文書について、関心と理解を深めていただくために、昭和59年から同展覧会を開催しています。今回は第20回目になり、「中世東寺の年中行事—御影堂—」というテーマで約70点の文書を展示します。

東寺は平安時代初め、鎮護国家の官寺として出発しました。ついで弘仁14(823)年、空海が嵯峨天皇より東寺を賜ったことにより、真言密教の根本道場の側面が付加されます。さらに鎌倉時代になると宣陽門院・後宇多法皇などの庇護を受けて東寺における弘法大師信仰が高揚してきます。ことに宣陽門院の御願として延応2(1240)年3月21日に初めて西院御影堂で行われた弘法大師命日の法会、西院御影供は、東寺をして弘法大師信仰を中心にした中世寺院へと大きくその性格を転換させました。

これらの東寺の多様な諸側面はその時々々の法会・仏事などの年中行事の中に現れてくるものと考えられます。

本展では、I「年中行事諸記録」、II「宣陽門院・後宇多法皇」、III「年中諸行事」、IV「仏事と寄進田」の4グループを設けて、中世東寺、とくに御影堂の年中行事の様子がわかるように構成しています。

以下、展示品の幾つかを紹介します。

写真1は、文明15(1483)年、宝輪院宗承が東寺における1年間の法会・仏事、それに係わる諸用途及び料所について書き上げたものです。奥書から、それまで実務に備えられていた記録をもとにして、新たに法会集を作成するための草案であったことがわかります。また、この草案から、年間150回を越す定例の行事が営まれていたことも判明します。



▲写真1 東寺法会集草案

写真2は、先に述べた西院御影供について記したものです。これ以前、大師像は西院南面の不動堂に安置されていました。この記録から寅一点(午前4時)、4人の供僧によって大師像が北面の御簾内に安置される様子や、その後、

供物が捧げられ、5人の供僧・3人の長者・凡僧別当によって御影供が初めて行われた様子が詳しく記されています。



▲写真2 延応二年教王護国寺西院御影供始行次第

写真3は、暦応4(1341)年5月の御影供の日、沙弥理観が所持していた金銅の不動明王像1体を現世と来世の福德をなしとげるために西院御影堂に寄せた時の寄進状です。奥書から、検非違使の中原章有が御影供への参詣途中、偶然に通りがかり、後証のために署判を加えたことがわかります。当時も御影供の日には、多数の参詣者があつたことがうかがい知れます。



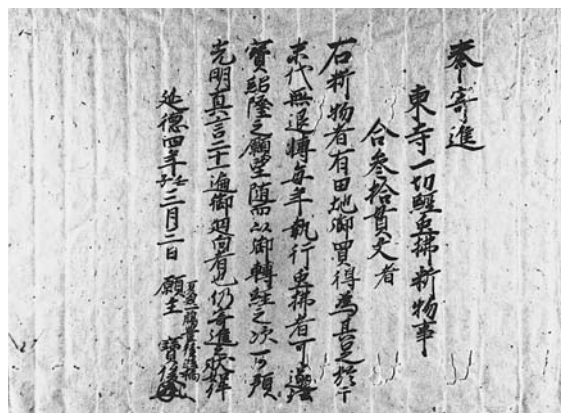
▲写真3 沙弥理観金銅不動明王像寄進状

牛玉宝印ごおうほういんとは、諸寺社から授与される護符の一種で、修正会しゆしゅうかいや修二会しゆにかいのときに配られ、家の戸口などに貼られたりして招福除災のお守りとされました。この御影堂牛玉宝印(写真4)は、毎年正月3日に天下太平・五穀豊穰・万民快樂などを祈願する御影堂修正会ごえいどうしゆしゅうかいのときに摺り出されました。



▲写真4 御影堂牛玉宝印

なお、宝印とは「牛玉 御影堂 宝印」と記された7つの摺り文字上の朱印のことで、朱に牛玉(牛の胃石・胆石)を混ぜ合わせて捺印されています。



▲写真5 豊後宝俊寄進状

写真5は、延徳4(1492)年3月2日、夏衆げしゅう(供花衆いっしゅう)の一臈いちろうである豊後宝俊が、毎年6月24日に行われる年中行事の一つである一切経の虫払い(虫干し)に料物30貫文を寄進したもので、適当な田地を買得し、未代まで中断することがないようにあります。この一切経は宋版一切経(6087帖)と呼ばれるもので、宣陽門院が東寺「法宝」整備のために御影堂に寄進したものです。寄進後は、食堂に文車6両に積載され保管されていました。料物の寄進といい、文車での保管といい、この一切経保管に並々ならぬ努力が払われました。

所蔵調査 — 「新幹線」のわな—

「所蔵調査」とは、文字どおり利用者が求める資料を資料館で所蔵しているか否かを調査する仕事です。文献課では、レファレンス業務（参考調査業務）の一環として、口頭や電話、文書等により、日々この業務を行っています。レファレンス業務の中でもこの所蔵調査の割合は、毎年ほぼ半数を占めており、主要な業務であるといえます。資料所蔵の有無を調べるだけといえば簡単なようですが、事はそう簡単に運ばないケースもしばしばです。今回は「新幹線」という言葉のわなにはまった、所蔵調査の苦労話をご紹介しますと思います。

皆さんが「新幹線」と言われて思い浮かぶのは、丸い鼻先のひかり号（0系）でしょうか？それとも、カモノハシ形の700系のぞみでしょうか？いずれにしても「新幹線」という単語は、東海道新幹線の開業以来40年以上を経た今日では、JRの高速鉄道及びその列車の名称として人々に親しまれています。

ところで、京都府内を貫通している東海道新幹線建設時に、現在の京都市山科区に所在する山科本願寺跡の発掘調査が実施されました。この発掘調査の記録「山科本願寺跡」が『東海道新幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』に収録されているとのことで、ある学生さんからこの調査報告書の所蔵調査の依頼を受けました。

山科本願寺とは、室町時代に本願寺の蓮如によって営まれた寺院で、広大な寺域と寺内町を持ち、周囲には土塁と濠を廻らした城郭的な構築物であったようですが、蓮如が亡くなってお

よそ30年後に焼失しています。寺跡の周辺は、近年特に宅地開発が進み、現在では、一部の土塁がその面影を残すのみとなっていますが、市民や研究者等による遺跡保存運動が実を結び、平成14年12月19日には「山科本願寺南殿跡^{つげたり}附山科本願寺土塁跡」が国史跡に指定されています。

この調査報告書を当館及び府立図書館の蔵書目録で検索してもヒットしません。書名だけでなく編者（文化財保護委員会）や出版者（日本国有鉄道）でも検索してみました。結局、当館にも府立図書館にもこの調査報告書は所蔵していないということが判明しました。当館では、府内に所在する埋蔵文化財の調査報告書についてはできるだけ収集する努力をしていますが、この資料は広く東海道新幹線の沿線を収録しており収集から漏れたようです。（なお、この一件後、当館でもこの調査報告書を入手しています。）

今日では、インターネットを利用して、府内の公共図書館の蔵書目録をはじめとして、国立国会図書館や全国の公共図書館、大学図書館の蔵書検索をも簡便に行うことが出来るようになってきました。資料館で所蔵していない資料については、これらの目録を駆使して探索し、所蔵館が見つければ、相手館の状況に応じて図書の借受や紹介状の作成あるいは複写申込み方法の案内などを行っています。この所蔵調査を受けた当時は、一般図書がほぼデータ化されて間もない頃で、所蔵調査も、以前のカード目録からコンピュータ目録の検索へと大きな変化を迎えた頃でした。インターネットの利用も未だ不慣れな状態でしたが、取りあえず国立国会図書館の蔵書を検索してみたところ、この書名ではヒットしません。日本国有鉄道発行の資料が、国会図書館に所蔵されていないというのは、どう考えても納得できません。そこで編者や出版者で検索したところ、いずれも何百件もの書誌データがヒットしました。これを出版年(1965年)で絞り込むと、それらしきタイトルの資料をようやく見つけることが出来ました。そこでもう一度書名で検索してみました。が、やはりヒットしません。なぜでしょう？穴があくほどパン



▲山科本願寺・寺内町の土塁（中村武生氏撮影）

コンの画面を見つめてようやくその理由がわかりました。書名が間違っていたのです。正しい書名は『東海道幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』だったのです。つまり、増設された東海道の幹線鉄道が「新幹線」だったというわけです。「新幹線」という今日では固有名詞化された単語に惑わされ、「新しい幹線」であるという、この言葉のもつ本来の意味を忘れていました。まさに「目から鱗」とはこのことでした。ちなみに、国立情報学研究所が運営し、大学図書館等が参加する総合目録である、NACSIS webcatも検索したのですが、こちらの目録は「新幹線」で記述されていました。そこで、依頼者の学生さんの所属大学を通じて目録の訂正を依頼し、現在では正しい書名に訂正されています。

改めて『日本国有鉄道百年史』を繙いてみますと、東海道本線の改良計画は、第二次世界大戦中の東京・下関間を結ぶ広軌別線建設計画、いわゆる弾丸列車計画に始まるものであったようです。しかしながら戦局の悪化に伴いこの計画は中断し、敗戦直後にはこれを引き継ぐために民間会社の設立も計画されましたが、在来線の復旧、改良が優先される中でこの計画も立ち消えとなります。その後日本経済が復興し、東海道本線の輸送力が逼迫してくると、その改良計画は至急の課題となり、昭和31年に至って、まず国鉄本社内に東海道線増強調査会、その翌年には幹線調査室が設置され、運輸省には日本国有鉄道幹線調査会が設置されて「新幹線」建設がようやく現実化しました。国鉄本社でも運輸省でも、当時はまだ「新幹線」という名称は使われていません。開業の翌年に刊行されたこの発掘調査報告書の序文では「東海道幹線増設工事(以下新幹線という)」とあり「新幹線」という言葉が登場しています。「新幹線」は開業後40年以上の歳月を走り続ける中で、国民に親しまれ定着していった名称であるといえます。

この発掘調査報告書の「山科本願寺跡」の項の執筆者は、杉山信三氏と堤圭三郎氏となっています。最後にこの両氏について簡単にご紹介したいと思います。両氏ともに京都市域及び京都府内の文化財の調査と保護に多大な貢献をされた方々です。まず、杉山信三氏は、明治39年京都市生まれ。京都高等工芸学校図案科卒業後、京都府の古社寺修理技手、奈良国立文化財研究所、近畿大学教授等を歴任されました。昭和51年には財団法人京都市埋蔵文化財研究所の設立

に尽力され、平成6年に退任されるまでその所長を務められました。その間、鳥羽離宮跡をはじめとする発掘調査を指導し、特に平安京研究に独自の業績を残され、平成9年12月に91歳で逝去されています。一方、堤圭三郎氏は、昭和11年鹿児島県生まれ。昭和36年に京都大学文学部史学科を卒業後、京都府で最初(全国で3番目)の埋蔵文化財担当技師として府に採用されて以来、定年退職に至るまで35年間の永きに亘って、埋蔵文化財の調査と保護に貢献されました。まさに、京都府の文化財保護行政の礎を築き、育てられた功労者であると言えます。惜しくも平成11年4月に、62歳という若さで亡くなったのですが、同氏と親交のあった人々の間で、その業績を記録し、人間味あふれる人柄を偲ぶために『堤圭三郎さんを偲ぶ』と題する追悼集が発行されています。なお、本書の執筆目録にも件の発掘調査報告書が掲載されていますが、残念ながらその書名は『東海道新幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』となっています。

以上、簡単そうでありながら、以外に難問であった所蔵調査の事例をご紹介します。この事例の教訓は、まず、目録を作成する図書館サイドでは、特にインターネットで広く目録を公開する今日の状況下では、たとえ一字の間違いであっても、利用者が目的の資料にたどり着くことが困難になるということ。また、文献を利用する側も、論文等に引用する際には細心の注意を払い正確を期すべきであるということの2点です。世の中のIT化の進展に伴い、所蔵調査をはじめとする図書館業務も大変様変わりし便利になりましたが、業務の基本は今も昔も変わらないというのが実状です。

<参考文献>

- ・『東海道幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(文化財保護委員会編、日本国有鉄道刊、1965年) 210.025/ B89
- ・『日本国有鉄道百年史 12』(日本国有鉄道編刊、1973年) M/686.21/N71/12
- ・『堤圭三郎さんを偲ぶ』(堤圭三郎さん追悼文集刊行会編刊、平成12年) K0/289.1/Ts94
- ・『平安京歴史研究 杉山信三先生米寿記念論集』(杉山信三先生米寿記念論集刊行会編刊、1993年) K1/210.36/ H51
- ・『京都大事典』(佐和隆研〔ほか〕編、淡交社刊、1984年) K0/291.62/Ky6
- ・『掘る・読む・あるく 本願寺と山科二千年』(山科本願寺・寺内町研究会編、法蔵館刊、2003年) K142/216.2/ Y44

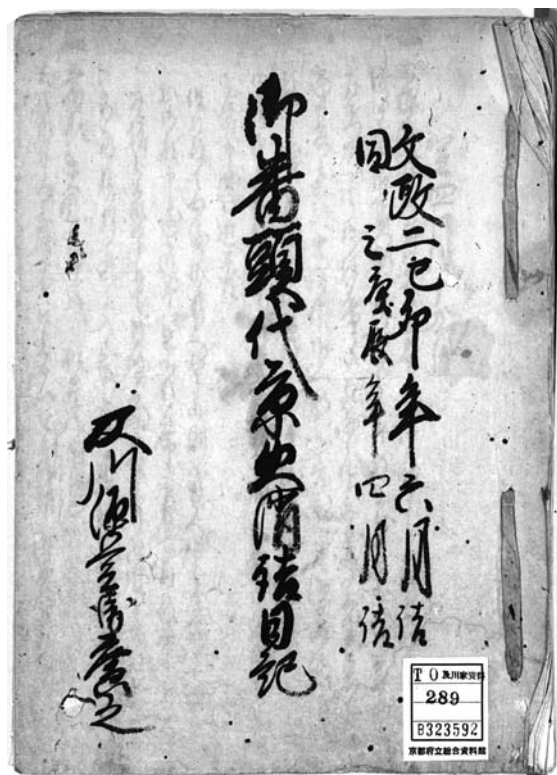
武士の介護休業制度

日本は、少子高齢化社会に、世界に例がないスピードで移行しています。それとともに生じてくる諸問題に対応する諸制度が設立されています。その一つが、平成11年から本格スタートした介護休業制度です。これは、介護を必要とする家族のある労働者が、一定期間仕事を休業して、介護を行い、再び職場に復帰する制度です。この制度は、法律により企業に義務づけられていますが、このような例は世界でも少ないといわれています。

ところで、同じような制度が、江戸時代、丹波の亀岡（亀山）藩の藩士には実施されていたようです。今回は、藩士が介護休業を願い出た時の様子を、及川源兵衛広之の「御番頭代京火消詰日記」（写真1）からご紹介します。

「京火消詰」とは、幕府から命じられる京都の消防を担当する大名火消のことで、京都火消役ともいわれる軍役の一つです。江戸時代後期は、亀岡藩を始め、山城淀藩、近江膳所藩、大和郡山藩の4藩（これらの藩主が老中その他の役職に就任した時は、摂津高槻藩、丹波篠山藩が交代）が担当していました。これらの4藩の内、藩主が国元にいる2藩が、1ヶ月交代で、藩の京屋敷に詰めて、火災が発生した時、隊を組んで市中に出動していました。亀岡藩の場合、本来、軍事を担当する数組あったと思われる軍団（同藩での呼称は不明）の長である「番頭」が、火消詰の責任者として赴任していったようですが、及川はその代役でした。日記は、文政2（1819）年6月と文政3年4月に赴任した時の勤番日記です。

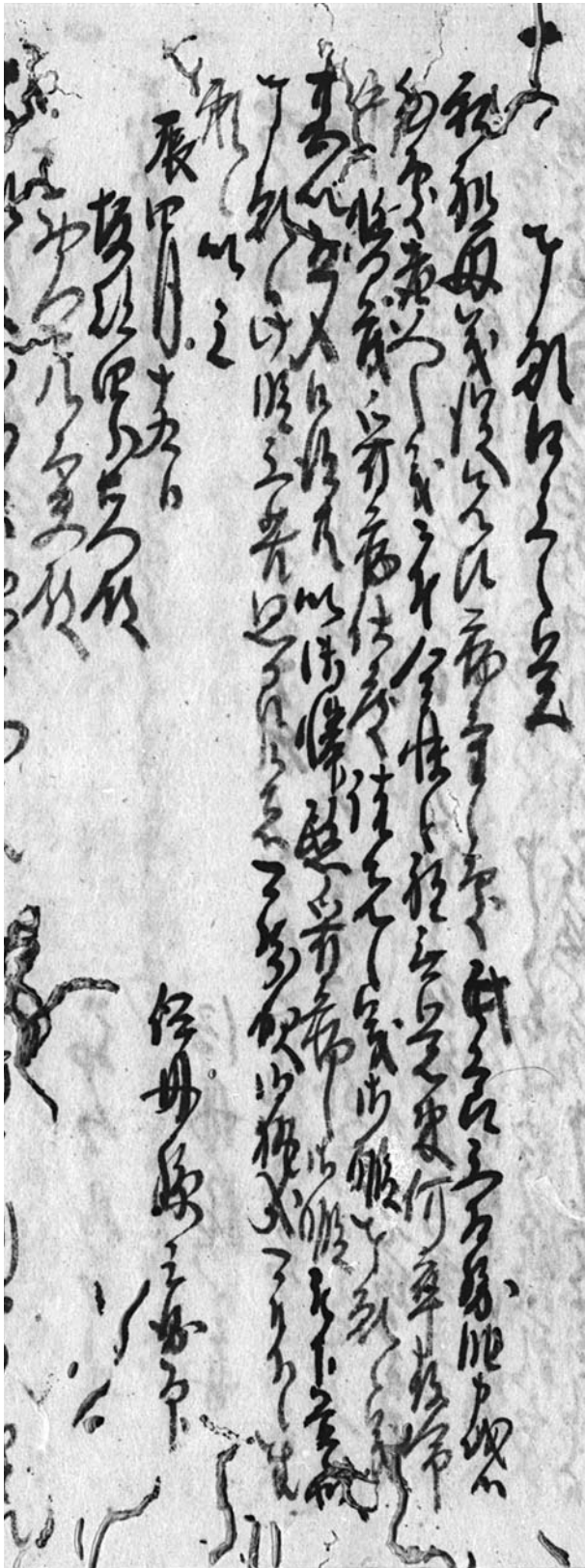
この日記のなかに、写真2の文政3年4月19日付けの「奉願口上之覚」（以下、「願」）が写されています。この「願」は、伊丹孫兵衛という藩士から、藩の重役の坂部、西郷に宛てられたものです。このとき伊丹は、日記によれば、火消詰の1人で、火災現場で警備を取り仕切る責任者と思われる長柄（鎧）奉行を勤めています。内容は、意識しますと「私の祖母が、先



▲写真1 御番頭代京火消詰日記

頃から病気で、今も調子がよくないと亀岡から連絡がありました。老人のことですから、全快するとは思えません。なにとぞ、祖母の命があるうちに、暫くでも看病をしてやりたいので、火消詰の休業をお願いします。はなはだ恐れ入りますが、看病のためお暇を下さりますようお願いいたします・・・」というものです。勤務を後11日残しての申し出で、よほど切羽詰まっていたのでしょうか。また、武士として、孝ならんと欲すれば忠ならず・・・と悩んだことでしょうか、祖母の命があるうちに看病をしたいという切なる気持ちが伝わってくるものです。火消詰の責任者の及川を通じて藩の重役に提出されたため、及川は日記に写し残したのでしょうか。現在、休業を申し出る時には、「介護休業申出書」を提出しますが、それに相当するものといえます。

「願」が写されている前部分の日記の記事を読みますと、「願」は前触れもなく出されたも



▲写真2 奉願口上之覚

のではなく、事前に伊丹の関係者から藩の重役に内々に申し出があって、協議され、及川に事前に通知されていたことがわかります。協議において、介護の対象者が親でなく祖母であるこ

一、 奉願口上之覚

私祖母義従先比病氣之處此其節不相勝候段申越候、然處老人之義二付全快之程無覚束、何卒存命

中暫茂看病仕度詰先之義御暇奉願候義、

甚以恐入候得共、以御憐愍看病之御暇被下置候様、

奉願候、此段不苦思召候者可然様御執成可被下候奉

頼候、以上、

(文政3年)

辰四月十九日

坂部四郎右衛門殿

西郷八大夫殿

伊丹孫兵衛印

とが、問題となったようです。しかし、数年前に江戸藩邸に詰めていた大久保という藩士が、祖母が大病のため、亀岡に帰ったという先例があることなどから、認められることになりました。

「願」は、日付の4月19日に及川に提出され、すぐに及川は承諾し、伊丹はそのまま亀岡へ帰りました。長柄奉行の役は、残り日数が少ないため、亀岡から交代者は派遣されませんでした。他の火消詰により代行されていたようです。

なお、伊丹の介護がよかったのか、祖母は快方に向かい、伊丹は5日後の24日に現場復帰しています。

以上、日記の記事から、藩士が休業を願い出て、また、藩の対応の様子をご紹介しました。申し出を受け、協議し、先例を確認し、内諾し、正式な申出書の「願」が提出され、休業者の業務は代行されるなどの対応が確認できました。現在の労働者と武士の立場は異なると思いますが、亀岡藩士には祖母まで対象とした現在のような介護休業制度があったといえるのではないでしょうか。また、この藩の制度は、藩からの命令には絶対服従と思われる武士が自己主張するという意外な一面も伝えてくれます。

(歴史資料課・古文書担当 山田洋一)

◆図書資料

〈人文〉

手に負えない改革者 メルヴィル・デューイの生涯 ウェイン・A・ウィーガンド著 川崎良孝・村上加代子訳 京都大学図書館情報学研究会 2004 494p

情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック 類縁機関名簿 2005 東京都立中央図書館編 ひつじ書房 2005 402p

都市の祭礼 山・鈴・屋台と囃子 植木行宣・田井竜一編 岩田書院 2005 471p (京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究叢書1) 寄贈

神宮史年表 神宮司庁編 戎光祥出版 2005 305p

法華経と古代国家 田村円澄著 吉川弘文館 2005 310p

中世庶民信仰経済の研究 阿諏訪青美著 校倉書房 2004 406p

日本災変通志 池田正一郎著 新人物往来社 2004 746p

近世義民年表 保坂智編 吉川弘文館 2004 526p

蜷川式胤「奈良の筋道」 蜷川式胤著 中央公論美術出版 2005 473p

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇3 解説・図版 水野敬三郎編 中央公論美術出版 2005 2冊

東京窓景 中野正貴著 河出書房新社 2004 1冊

古志の里 中条均紀写真集2 中条均紀著 新潟日報事業社 2004 108p

古代エジプト文明3000年の世界 京都文化博物館学芸課編刊 2005 220p 寄贈

江戸絵画への熱いまなざし インディアナポリス美術館名品展 インディアナポリス美術館他編 読売新聞大阪本社 2004 225p 寄贈

守一ののこしたもの 熊谷守一画 岐阜新聞社 2004 207p 寄贈

シルクロードの装い パリ・コレに花開いた遊牧の民の美 NHKきんきメディアプラン・情報工房編 NHKきんきメディアプラン 2004 189p 寄贈

〈京都〉

京都の歴史がわかる事典 読む・知る・愉しむ 五島邦治編著 日本実業出版社 2005 300p

夜久野町史 第1巻 自然科学・民俗編 夜久野町史編集委員会編 夜久野町 2005 777p 寄贈

京都の地名検証 風土・歴史・文化をよむ 京都地名研究会編 勉誠出版 2005 429p

「京都流」という方法 受け継がれるベンチャー精神 大西辰彦著 のぞみ 2005 131p

イケズの構造 入江敦彦著 新潮社 2005 173p

京都文化ジン類学 これであなたも京都ジン 大淵幸治著 かもがわ出版 2005 254p

京都の介護現場から提言する 介護保険5年目の見直しに向けて 京都府保険医協会介護保険対策委員会編 かもがわ出版 2005 151p 寄贈

丹後の葉草88選 富川惇志著述・写真 大塚恭男監修 丹後・小規模企業広域活性化事業推進委員会編刊 2004 176p 寄贈

庭園の系譜 京都市文化市民局文化財保護課編刊 2005 94p (京都市文化財ブックス第19集) 寄贈

京都画壇岸派の展開 特別展 敦賀市立博物館編刊 2005 108p 寄贈

清水六兵衛歴代展 京の陶芸・伝統と革新 千葉市美術館編刊 2004 319p 寄贈

京てぬぐい 永楽屋コレクション 永楽屋細辻伊兵衛商店監修 ビエ・ブックス 2005 239p



おぼえておきたい京の名せりふ 高野澄著 京都新聞出版センター編刊 2005 158p

太田垣蓮月 杉本秀太郎著 桐葉書房 2004 289p

<官庁>

中丹地域台風23号災害記録写真集 平成16年台風23号の爪痕 京都府中丹広域振興局編刊 2005 48p

公共用水域及び地下水の水質測定結果 平成15年度 京都府企画環境部環境管理課編刊 2005 524p

京都府の工業 平成15年 京都府総務部統計課編刊 2005 3, 159p

維持管理年報 桂川右岸流域下水道・木津川流域下水道・宮津湾流域下水道・桂川中流流域下水道・木津川上流流域下水道 平成15年度 京都府土木建築部下水道課編刊 [2005] 282p

京都市観光調査年報 平成16年(2004年) 京都市産業観光局編刊 2005 29p 寄贈

京北町消防団50年のあゆみ 京北町消防団OB会編刊 2005 64p 寄贈

園部 新園部町発足50周年記念誌 園部町編刊 2005 72p 寄贈

出入国管理統計年報 第44(平成16年) 法務省大臣官房司法法制部編刊 2005 14, 178p 寄贈

構造改革評価報告書 3 内閣府編刊 2004 6, 106p 寄贈

技術革新と労働に関する実態調査報告 平成15年 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2005 193p 寄贈

循環型社会白書 平成17年版 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部編 ぎょうせい 2005 204p

雇用動向調査報告 平成15年 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2005 409p 寄贈

ものづくり白書 2005年版 経済産業省・厚生労働省・文部科学省編 ぎょうせい 298p

ポケット農林水産統計 平成17年版 農林水産省大臣官房統計情報部編刊 2005 593p 寄贈

農村物価賃金調査報告 昭和26・27・28年 農林省統計調査部編刊 1955 140p

J N T O国際観光白書 2004・2005年版 国際観光振興機構編著 国際観光サービスセンター 2005 437p

◆文書資料(新しく公開する資料)

黒田地区文書 旧京北町(現京都市右京区)黒田地区(下黒田村・黒田宮村・上黒田村)の井本正成家、井本圭介家、大東敏夫家、和田貞一家、西逸治家、菅河宏家、吉田晴吉家、宮春日神社、坂上谷善二家、上黒田春日神社の10の文書が含まれている。同地区は江戸時代は初期を除いて禁裏御料で、御所との関わりが深い地域である。林業、筏流、献上鮎、村経営や家の由緒等に関わる中世から近代までの資料。科研「京都近郊山間村落の総合的研究」<研究代表坂田聡中央大学教授>提供フィルムによるマイクロ収集。

富田村文書・丙 船井郡富田村(現丹波町)の文書。富田村は明治7年に坪井村と高屋村が合併して成立した村で、この資料は合併前の坪井村の文書が中心。「御触書万願事控帳」(天明6年~文政5年)、「地券御渡願書」等の近代書類ほか。13点。

北川家文書 京都市東山区の米穀商の文書。米の仕入れ・販売・集金に関わる台帳類。明治22~昭和11年。32点。寄贈。



◆◆◆ 第4回古文書解読講座のご案内 ◆◆◆

来年1月下旬から次の日程で開催予定です。ホームページ、ポスター、チラシ等で詳しい内容をご確認の上、募集期間内にお申し込みください。

初心者 Aコース 1月24日(火)~27日(金)
(各30人) Bコース 1月24日(火)、31日(火)
~2月2日(木)

一般 Aコース 2月14日(火)~17日(金)
(各80人) Bコース 2月21日(火)~24日(金)

※いずれも13:30~16:00 資料館2階会議室
※テキスト代2,000円と郵送料が必要です。

◎募集 11月1日(火)~19日(土)(消印有効)

臨時休館のお知らせ

所蔵資料の点検・整理のため、次のとおり臨時休館します。ご理解とご協力をお願いします。

◆休館期間

9月29日(木)～10月13日(木)

総合資料館府民講座のお知らせ

◇10月21日(金) 午後2時～

隴谷寿氏(同志社女子大学教授)

演題「道長の栄華―その豪邸の風景―」

※この講座は、遠隔講座として、宇治市源氏物語ミュージアム(定員70名)と西舞鶴駅の愛ティープラザ(定員20名)に同時中継します。詳しくは、府スポーツ生涯学習室(TEL 075-414-4284 FAX 075-414-4285)までお問い合わせください。

◇11月30日(水) 午後2時～

新見康子氏(東寺宝物館学芸員)

演題「『弘法さん』の年中行事

―東寺御影堂と弘法大師信仰―

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。

*満席で受講をお断りする場合があります。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

メール shiryokan-shomu@mail.pref.kyoto.jp

収蔵展示室の一般公開

当館3階の収蔵展示室において、歴史・民俗資料等の一般公開を行います。

10月19日(水)～10月21日(金)

午前9時30分～午後4時30分 入場無料

問合せ先：京都府京都文化博物館学芸課

TEL 075-213-2893

友の会事務局から

今年も秋に、バスによる見学会を予定しています。当館恒例の東寺百合文書展の列品解説もあります。皆様のご参加をお待ちしています。

◆見学会

11月16日(水)、17日(木)の両日、奈良市写真美術館、慈光院、秋篠寺を見学します。

◆第20回東寺百合文書展の列品解説

11月24日(木) 午後2時～

◎ 随時入会の申込みを受け付けています。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成17年6月～8月)

6.24(金) 府民講座(第26回)

7.19(火)～8.31(水) 収蔵品展

利用案内

休館日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期、年末年始(12月28日～1月4日)

【10月～12月の休館日】

9月29日(木)～10月13日(木)、11月3日(祝)、11月9日(水)、11月23日(祝)、12月14日(水)、12月23日(祝)、12月28日(水)～1月4日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、(北8) 北山駅前下車
京都バス②⑧、④⑤、④⑥ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています